



ヤ 4
1435
7

侃斯達篤

卷七

1435
7

坪井信良譯

初白樓藏梓記

侃斯達篤篤內科書

卷七 卷八

初白樓藏梓

英山老 蘭茶皂 堂房館

侃斯達篤卷之七

侍醫法眼

坪井信良譯

腺病

チユベルケル、及スクルヘル 余以テ同一ハ、一種ノ

局部症ナリ、宜シクチユベルキュルシス、チユベルケル

及スクルヒュルシス、スクルヘル 即チ局部症ヲ發

スル所以ノ全身病ト、混スルヲ勿ルヘシ、之ヲ解

剖シテ檢査スルニ、真ノ新成形物ヲ見ルニ非ス

ト雖方今醫學精密ナルノ時ニ於テ、之ヲ論スレ

腺病



ハ、此所ニ之ヲ説クヲ穩當ナリトス、
解剖症候

外膚或ハ内部組織ニ、腺病毒ノ鬱積スルハ、猶他
ノ分泌液ノ如ク、其始メハ流動スレモ、漸ク凝結
シテ固形トナルナリ、内部ニモ粘液膜ヲ具スレ
ハ、腺腫ヲ生スルヲ、外膚ニ於ルト異ナルヲナシ、
被包セル腺腫ノ形狀數様ナリ、多クハ圓球狀、又
塊狀ナリ、又散發獨成腺腫其大サニ隨テ、粟粒腺腫ト稱ス、但シ小ナル
者ハ麻子ノ如ク、大ナルト、組織腺毒凝結トノ別ア
者ハ黎豆ノ如キアリ、
リ、此ノ如ク形狀各般ナル所以ハ、次件ニ由ルナ

リ、患部組織ノ性質、沕乙膜ニ生スル者ハ球狀ナリ、
壻狀、又分枝狀ナリ、沕乙膜ニ生スル者ハ圓
ノ強弱、周圍ヨリ壓迫スル、鬱積スルメ多寡、又
凝固スルノ遲速ニ由ル、同一器ノ諸部ニ於テ、各
種ノ形狀ヲ爲ス者屢之アリ、白黃ヲ本色トス、他
色黃、綠、黒、偶然ノ者ナリ、顯微鏡ニテ檢スルニ、真
ノ腺病體ハ、其周圍三十分線、一、至百分線ノ一ナ
リ、核ナク、ノ不整ノ圓狀ナリ、水、亞的兒、酸類ニテ
ハ變セス、強烈酸類、鼈乙典埕諸母尼亞、及ヒ強烈
鼈乙典埕剥篤亞斯ニハ溶解ス、又脂肪液、色分、纖

維及ヒ結晶ヲ見ルヲ屢之アリ

腺病ノ真成分タル腺病體ハ、何等ノ物ナルヤ、之ヲ知ルニハ、總テ腺病ノ性ヲ熟考スルヲ要ス、ホーゲル氏、ギュシスビュルグ氏曰ク、腺病體中ニハ核アリ、真ノ細胞ナリト、然ルニ、レベルト氏等ハ、此核ヲ排斥シテ、腺病體中ニハ、脂肪球アリトス、或ハ曰ク、腺病體中ニハ、發成未全ノ細胞アリテ、其性分解シ易シト、或ハ曰ク、固性粘質ニメ、内ニ脂肪球ヲ盈ツト、舍密法ニテ腺病體ヲ分析スレハ、卵白、醣、纖維質、油分、マルガ

リニ酸、鹼トナリ易キ脂肪、コレステアリ子、乳酸、乳酸曹達、其灰中ニハ、炭酸曹達、塩酸曹達、磷酸加爾基、炭酸加爾基、珪土、酸化鍍アリ、故ニ確徴トナスヘキ者ナシ

腺毒發成及増息法

或ハ曰ク、腺毒ハ血中ヨリ分泌スル所ノ滲出液ナリ、但シ一種ノ敗血ニ由ル者ナレハ、發成十全ナラス、不全細胞頗ル流利スト、此説ニ據レハ、其分泌スルノ始、流動スル膠狀滲出液ナリ、各箇ノ肺裂列印巴腺ニ於テ、其部ハ鮮白、黃ナリ、兼テ焮衝ヲ發ス

レハ赤色ナリ、兩側ヨリ壓迫スレハ膠狀液滲出
ス、但シ之ヲ顯微鏡ニテ檢スルモ、未夕現著ナラ
ス、或ハ全ク腺病體ナク、或ハ之アルモ極テ少ナ
シ、然レモ腺病體漸ク增多スルニ至レハ、膠狀液
隨テ渾濁シ、灰白トナリ、含ム所ノ稀液蒸散シ去
レハ、終ニ黄色、或ハ黄白色トナル、一種ノ腺病、又獨
成腺病ト稱スル者ハ、極テ小形ナル灰色腺病滲
出液ナリ、

レインハルドト氏、新ニ實驗スル所アリテ稍
此説ヲ變スレモ、尚之ヲ根基トス、何トナレハ、

腺病體ノ發成ヲ説クニ、焮衝作用ヲ以テスレ
ハナリ、慢性焮衝ハ、原病ト云ヘシ、而シテ稍變異
アルノミ、其始、膠狀滲出液透明ニシテ、灰白ナリ、
後固性腺毒トナリテ、集合組織ト、彈力アル組
織トナル、此滲出液ハ、集合組織硬結スルノ初
期ナリ、然レモ黄色腺病體トナル者ニ非ス、黄
色腺病體ハ、膿狀ナル焮衝滲出液ノ漸ク濃厚
トナル者ナリ、故ニ腺病體ハ、膿體ノ凝結スル
者ニ過キス、更ニ講究シテ以テ此説ノ真ナル
ヲ知ルヘシ、

腺病
白
刀
書

ヒルシヨウ氏ハ、腺病體ヲ滲出運營ナリトス
 ルノ説ヲ排斥シテ、曰ク、曾テ機性體トナルノ
 物質、復タ分解スルニ成ル、故ニ腺病體ハ物質
 成分分解シテ、其核變異スル者ナリ、腺病敗血
 ハ、滋養成形機休止シ、細胞狀物質ニ由テ生ス
 ル組織部ノ潰爛スルナリ、而シテ新生異物ナル
 モ、尋常物質ノ成形增多スルモ同シ、此ノ如キ
 鬱積ニ由テ、其部ノ脈管壓迫セラレ、一部滋養
 ヲ失シ、細胞體分解シ、脂肪滲出シテ、細胞ハ離
 斷シ、球狀體トナル、此時核ハ尚凝結シテ不整

ナル暗體トナル、然レモ終ニ分析シテ、唯微細
 ナル球狀體ヲ遺スノミ、故ニ腺病敗血ハ、諸般
 ノ運營ニ由テ生スル者ナリ、膿化腐敗熱、寒壞
 疽、硬結、癌腫ノ續症ナルコト、已ニ説ク所ナリ、又
 脂肪性、加爾基性、糜狀性ノ別アリトス、余今此
 説ニ從フ、但シ尚後進ノ可否ヲ定ムルヲ希フ
 所ナリ、此他腺病ノ新説アリト雖、治法ニ益ナ
 ク、又醫術精密ナルヲ徵スルニ足ル者ナシ、故
 ニ今之ヲ掲ケス、又腺病體ヲ脈管アル真成形
 物トナシ、或ハ水腫囊ナリトスルノ説アレモ、

亦是レ臆斷ノミ、

腺病區別

一 硬結性 ロキタン スケイ氏 腺病體凝結收縮シテ、堅塊ト

ナル者、堅硬醜狀、半透明ノ角質ナリ、レインハル

白色腺病體ノ集合 灰白色獨成腺病體ノミ、此種

トナルヘシ、全然潰爛スルモ、更ニ他部ニ及フ

ナシ、硬結性腺病ハ、肺ノ尖端硬結シテ斑痕狀ニ

收縮セル巴連舍麻ニ生ス、

二 軟解性、黃色腺病ニ之アリ、腺病體漸次ニ溶解

シ、傑列乙狀、流動性、或ハ醜狀ノ糜トナリ、終ニ稀

薄水様酸臭アルノ液トナリ、其内片狀、蒸餅屑狀

ノ物、未夕全ク溶解セサル腺病體ノ遺物アリテ、

浮泳ス、腺病膿 軟解スルハ先ツ中點ノ部ヨリス、

腺病ノ性ヲ説クニ、諸家差異アルカ故ニ、其軟

解ヲ説ク、亦數様ノ別アリ、人多クハ腺病固有

性ノ變質ヲ主張シ、周圍ノ部之ニ關係スルヲ

説カス、或ハ又軟解ハ外部ヨリ成ル所ニテ、周

圍湧乙狀、或ハ膿狀滲出ヨリ生ストスルアリ、

或ハ此二説ヲ併セ取ル者アリ、肺藏腺腫ノ顯

著ナル中點軟解ハ、其内部膿液充盈セル細胞

ヨリ生スル者ナリ、尚肺腺病條ニ詳説スヘシ、
之ヲ要スルニ、黄色腺病體內ノ中點軟解部ハ、
近世ノ説ニテハ、未熟ニメ凝固セサル慢性焮
衝ノ膿液滲出ニ過キス、故ニ周縁腫瘍ナリ、但
シ膿液乾燥シテ、黄色ノ醃狀物トナルハ、則チ
腺病ト稱スル者ニテ、必ス周縁ヨリ中點ニ向
テ成ル者ナリト、

顯微鏡ニテ檢スレハ、流動液中、脂肪體ト、凝固
シテ液ノ浸淫ニテ膨脹セル腺病體アリ、此物
終ニ變シテ、球狀液トナル、其内屢見ル所ノ膿

體ハ、周圍ノ部ヨリ生スル者ニテ、腺病體ヨリ
生スル者ニ非ス、

三、加爾基性、ロキタンスケイ氏曰ク、其始メ軟解
シ、液中含ム所ノ加爾基塩游離シ、過多トナルナ
リ、此時脂肪モ、結晶體モ共ニ游離ス、始メ軟解ス
ル質ハ、脂肪狀ノ加爾基糜トナリ、次テ泥狀、加爾
基狀トナリ、終ニ石質ニ變ス、加爾基性腺腫ヲ生
スルハ、必ス焮衝滲出ニ由テ硬結シ、潰爛スルノ
部、或ハ胼胝狀體中ニ於テス、而メ周縁ノ部ハ、必
ス斑痕狀ノ収縮アリ、腺腫ノ自然ニ治愈スル者、

之ニ由テ其績ヲ全フス、

今記スル所ノ第一種ト、第三種ハ、良能ノ自ラ腺腫ヲ治愈スルノ法ナリ、第二種ハ、其經過中ニ、之ヲ防カサレハ、局部潰爛シテ、終ニ敗壞スルナリ、一腺腫全然軟解マレハ、巴連舍麻中ニ、腺病膿ヲ充盈スルノ空隙ヲ生ス、其大サハ腺腫ノ大サノ如シ、粘液膜ノ如キ平面ニ生スル者ハ、平等ノ腫瘍トナル、是レ滲出セル腺病體ニテ、圍包セル組織壓迫セラレ、ト、滋養缺乏スルトニ由テ、一齊ニ腺病膿ヲ漏泄スレハナリ、腺腫空隙、腺腫瘍ノ

増大スルハ、或ハ空隙ノ周圍ニ同狀ノ軟解セル腺病體、新ニ集積スルニ由リ、或ハ腫瘍ノ周縁、及ヒ底面ニ於テ、近傍ノ數空隙、及ヒ數腫瘍相合スルニ由ルナリ、此ノ如クニ、或ハ極テ大トナリ、不整ノ異形ヲ為ス、アリ、新腺腫集合スルハ、炊衝運営ノ結局ナリ、其炊衝ハ實質損敗ノ部ニ生シ、滲出液ハ敗血ヲ帶テ、腺病體ヲ含ム者ナリ、又炊衝滲出液ヨリ、發生スル成形物ハ、纖維質トナリ、周圍部ノ胼胝狀凝結ニ由テ、空隙、及ヒ腫瘍ノ増大スルヲ妨ケ、斑痕ヲ生スル、屢之アリ、肺藏

腺腫條下、尚之ヲ詳説スヘシ、

チユベルケル毒、及スクルヘル毒、

チユベルケル毒ト、スクルヘル毒トハ、理學ニテモ、

舍密法ニテモ、顯微鏡ニテモ、辨別スル所ナシ、但

シ通言上ニテ之ヲ區別スルノミ、其外部ニ生ス

ル者ハ、必ス之ヲスクルヘルト稱シ、而ノ全然同

質ナルモ、内部ニ生スル者ハ、之ヲチユベルケルト

稱ス、肺藏細胞、腸間膜ニ生スル者ノ如シ、又腺ノ

膠狀及ヒ灰白色滲出ハ、スクルヘルト稱スレト

肺藏ノ如キ内部ニ生スレハ、則チ之ヲチユベルケ

ルト稱ス、故ニ此兩症ハ、其鑒別固ヨリ余カ五神ノ

察スヘキ所ニ非ス、然レモ又全然同一ナリトス

ヘキノ確徵ナシ、尚後ニ於テ詳説スヘシ、

症候

局所腺病ヲ發スルノ部ハ、腺毒集積ニテ、器械性

障害ヲ為スニ至ラサルノ間ハ、疼痛ナク、又患惱

ナシ、滋養機ノ障害、亦顯著ナラス、既ニノ漸ク壓

重不安ノ感覺ヲ起シ、凝固又疼痛ヲ發ス、而ノ其

局部腺腫ヲ生シ、之カ為ニ刺戟壓迫ヲ受クルノ

知覺神經、各自固有ノ性アルニ由テ、發スル所ノ

症狀亦各自固有ノ別アリ、肺ニ於テハ氣息不利、
 腸ニ於テハ疝痛、頭部ニ於テハ頭痛ヲ發スルカ
 如シ、又患部機能ヲ障害スル所以ハ、或ハ其運營
 ヲ壓止スルニ由リ、或ハ組織顯ニ損傷スルニ由
 ル、又腺腫ノ刺戟ニ由テ、一ニハ周圍ノ部炊衝ヲ
 生シ、如肺一ニハ神經機能ヲ障害ス、例之腦腺腫
 ハ搐搦、腎腺腫ハ嘔吐ヲ發スルカ如シ、軟解勞瘵
 ニ陥ル者ハ、溶崩熱ヲ發ス、蓋腺腫ヲ生スルノ部
 位異ナルニ隨テ、諸症大ニ差異アリ、尚局部病條
 ニ於テ之ヲ詳説スヘシ、其要限。

腺腫ハ何レノ部ニモ生シ、又或ハ同一時ニ諸
 部ニ生スルヲアリ、就中、肺藏、列印巴腺、氣管ハ、
 之ヲ生スルノ最モ多シ、婦人内部生殖器、及ヒ
 胃ハ、之ヲ生スルノ少ナリ、又大ニ年齢ニ關ル
 小兒ニハ腦髓、腦膜、氣管ニ多ク、稍長スレハ肺
 藏ニ多シ、
 腺病上ニ記スルカ如キ變移ヲ為スハ、經過遲徐
 ナリ、或ハ卒然トシテ必死ノ症ヲ發スルアリ、急性腺腫
 曾テ腺病ニ罹レトモ、外貌全然健康ナルカ如キ者
 アリ、故ニ之ヲ鑒別スルノ極テ難ク、或ハ全ク能

ハス、其症候、窒扶斯、葶熱、酒客譫妄、氣管焮衝ノ如クニ、經過シ去リ、死後解剖シテ始テ某部ニ腺腫ヲ發スル者ナルヲ知ルコト多シ、

ロキタンスケイ氏曰ク、急性腺腫ハ、必ス硬球ニシテ其大サバ、フル子大ヨリ、粟粒大ニ至ル、鮮光ニ照ラノ、纔カニ之ヲ見ル、或ハ透明泡狀清澄ナリ、或ハ渾濁柔軟粘稠灰白ナリ、又或ハ稀ニハ暗昏白色、或ハ帶白黃ナリ、患部齊シク灰色稀液ヲ滲出ス、肺、子宮、脾、腸網ニ生スル者最モ然リ、

チュベルケル、及スクロヘル性質、
チュベルケル性質變質ト稱スル局部疾患ハ、實ニ血液一種ノ變敗ニテ、チュベルケル敗血ノ原基ナリ、是ニ由テ、血中ヨリ分泌スル物質、變敗スルナリ、今此敗血アリトスレバ、其含密性質、顯微鏡形狀、何等ノ變異ナルヤヲ知ルコトナシ、或ハ纖維質ヲ稱スル者アレバ、亦之ヲ難スル者少ナカラズ、一種ノ全身疾患、病原タルハ、固形部病理家輩尚之ヲ取ル所ナリ、レインハルドト氏曰ク、機能一異變ヲナスハ、各部慢性焮衝ノ續症ナリ

ト、ヒルシヨウ氏曰ク、チユベルケルハ、一種ノ機能アリテ、猶癌腫肉ニ發スル者ノ如ク、其經過中必スチユベルケルトナル者ナリト、

然レ、氏、スクロヘル敗血ノ本性、何等ナルヤハ、未タ之ヲ詳カニスル所ナシ、血體減少ハ、スクロヘルニモ、チユベルケルニモ、共ニ存スル所ニテ、一原因ト云ヘシ、又スクロヘル病兒ノ尿中、蔞酸加爾基極テ多ク、又之ヨリ生スル結石アル者少ナカラス、バルマン氏、ベ子ケ氏、舍密法ニテ驗スルニ、未タ確徵トナスヘキ者ヲ得サルカ故ニ、スクロヘルト、チ

ベルケルトノ異同ヲ辨スル一極テ難シ、此兩病余輩ノ診察スル所ニテハ、全ク相同シキカ如シト雖、生活時間發スルノ諸症、相類似スルノミニテ、全然相同シキニ非ス、又皮膚粘液膜等ノスクロヘル疾患アル兒ニ於テ、腺及ヒ内部ニチユベルケルヲ發スル者少ナカラス、又スクロヘル病ニノ、所謂チユベルケル排泄ナキ者亦屢之アリ、但シスクロヘル敗血ニハ、固有ノ症候アリテ、所謂チユベルケル肺勞條ニトハ、自ラ別アリ、然レ、氏列印巴腺、皮下組織、外皮、粘液膜、諸骨ハ、焮衝ヲ發シ易

ク之ニ由テ腺腫、腫瘍、腐骨疽ヲ生スルコトアリ、今此諸症ヲ詳説スヘシ、

スクロヘル症候、皮膚膨腫、白色、忽チ鮮紅ヲ潮ス、玫瑰紅、或ハ蒼色ノ脈絡透見シ、唇頰濃紅、眼膜青色ヲ顯シ、眼貌憤愠スルカ如シ、諸筋扁薄ニシテ柔軟ナリ、身體其大サニ比スレハ、重量輕シ、是レ其諸骨輕疎ナルニ由ルナリ、齒美ニシテ蒼色光輝アリ、狭クメ尖ル、毛髮軟ナリ、多血症、或ハ頭部大、顔貌醜惡、鼻、上唇膨腫、頰廣ク、腹脹リ、頸圍腺腫、諸筋弛緩シテ海綿狀ナリ、慢性症、

スクロヘル敗血、慢性炊衝ヲ發シ易キ部ハ、

一列印巴腺、頸腺、又稀レニハ鼠蹊、或ハ他部ノ

腺、徐々ニ腫起シ、其始、小圓動揺スル塊ニシテ、黎豆大、胡桃大ナリ、頸、項、頰下、鼠蹊ニ輕微ノ感覺アルアリ、或ハ少シモ感覺ナキアリ、他性ノ腺腫、例之、生齒交感、口内炊衝、環癬、續發黴毒ト混スルコト勿レ、腺腫漸ク膨大シ、其始相離隔スル者、終ニ合ノ大塊トナリ、遍子ク頭圍ヲ纏ヒ、之ヲ一見シテ、則チ此病タルヲ知ルヘキニ至ルアリ、或ハ其一ニ皮膚ニ固著シ、赤色疼痛終ニ

破裂シ且ツ數孔ヲ開キ、乳狀、膿狀液ヲ漏泄ス、
焮衝後、忽チ内空充填シテ、速カニ斑痕ヲ遺ス
者亦之アリ、又慢性膿腫トナリ、長短アル數瘻
管ヲ開キテ、相交通シ、赤色ノ厚皮ヲ被ヒ、諸法
ヲ施コスモ、頑然治シ難キアリ、愈後斑痕白色
ニシテ、硬キ線ヲ為ス者、或ハ異形ヲ為シ、斜頸ト
ナリ、截斷法ヲ要スル者アリ、

眼瞼腺慢性焮衝、亦之ニ屬ス、是レ少年ニ於テ
眼焮衝ヲ發シ、膿痂睫毛ニ凝著シ、終ニ睫毛脱
落スルニ至ル、或ハ膿潰セスノ、漸次ニ硬結ス

ルアリ、又漸次ニ滲出液ヲ吸收シ去テ、縮小ス
ルアリ、

二集合組織、殊ニ皮下組織ニ於テ、スクロヘル
病兒、局部慢性隱伏焮衝滲出スルヨリ、多少膨
大、稍彈カアル腫瘍ヲ發ス、多クハ手足ノ甲ニ
於テス、所謂スクロヘル焮衝腫、腺腫起ト混シ易シ、但シ是
レ周圍組織ノ焮衝ヲ併發スレハナリ、疎鬆ナ
ル組織、頰下、頸ニモ生シ易ク、膿化スル者多ク、
分解スル者少ナシ、

三粘液膜、粘液腺焮衝、分泌增多、或ハ變質ハ、他

ノ粘液膜燉衝ニ於ケルカ如シ、最モ生シ易キ部ハ、眼ノ結膜、甚ク蓋明シ、角膜上、水泡腫瘍ヲ發シ、後不透明ノ斑痕ヲ遺シ、經年治セズ、鼻内粘液膜、鼻孔表皮剥脱、乾固膿痂ヲ生シ、膿狀、汚乙狀、惡臭アル稀液ヲ漏泄ス、耳内聽道起、或ハ息肉ヲ生ス、腔、自ラ固アリ、手淫、乏血、蟲病等ニ發スル白帶下ト混スル勿レ、等ナリ、小兒耳出血スルヲアレハ、衆皆以テスクロヘル敗血トスレ、生齒ノ時、耳内粘液ヲ漏泄スルヲアリ、又羅斯猩紅疹、汗疹等ノ皮膚燉衝、容易ニ耳内ニ連及シテ、出血シ、少シモスクロヘル症ナク、敗血ヲ原因ト為ス可ラサル者アリ、

四 皮膚慢性燉衝ヲ生スル其部位一ナラス、又

其合併症數般アリ、最モ頭部毛際、諸種ノ顔面

體軀、汗疹、環癬、等ヲ多シトス、此ノ如キ合併ニ於テ

ハ、頑固慢性醜狀ノ皮膚腫ヲ發ス、

五 骨海綿狀骨、岩様骨、脊椎手骨、脚骨ハ慢性燉衝ヲ發シ

易シ、關節ニ於テハ諸種ノ關節病ヲ發ス、之ヲ

詳説スルハ瘍科ノ司トル所ナリ、

スクロヘル性燉衝ノ最モ發シ易キ諸部ノ内、

列印巴腺ト骨トハ、滲出スルヲ最モ多ク、チユベ

ルケル狀トナリ易シ、但シ此諸部ハ、排泄スル

一難キカ故ニ、チユベルケル變性トナルニハ時
月ヲ要スルナリ、

以上記スル所ノ諸症、實ニチユベルケルト別アル
ヲ知ルニ足ル、故ニ余謂ク、此兩症ノ相類似スル
ハ後件ニ在リ、スクロヘル燄衝ニ由テ生スル滲
出物、殊ニ列印巴腺、巴連舍麻器、又諸骨ニ於テス
ル者ハ、時月ヲ經ルニ隨テ、變シテチユベルケルト
ナルナリ、然レ凡スクロヘルノ此ノ如ク變スル
ハ、必然ノ者ニ非ス、何トナレハ、其人終生絶テ所
謂スクロヘル症ヲ發スルコトナキ者ニ於テ、チユベ

ルケルヲ發スルコトアリ、是レ慢性チユベルケルヲ
患フル者ニ於テ見ル所ナリ、故ニスクロヘル敗
血トハ、全身病ノ總稱ニメ、諸機衰弱、滋養缺乏ス
ルヨリ、慢性燄衝ノ滲出物、チユベルケル狀ニ變ス
ル者ノミ、然レ凡諸症自ラ顯著ナルノ差異アル
カ故ニ、肺勞原トナリテ、發スル敗血ノチユベルケ
ルト稱スル者トハ、辨別スヘシ、

此兩病ノ異同ハ、解剖ニテモ、顯微鏡ニテモ、判
然タル辨別ヲ為シ能ハス、死後ハ生活間ノ諸
症トハ、大ニ異ナル者アレハナリ、其固有症ナ

ル滲出モ、解剖ニテハ見ルヲ能ハス、生機ニ基
 クニ非レハ考フヘキ者ナシ、故ニチユベルケル
 ト、スクロヘルトヲ、辨別スルハ、一大難事ナリ
 トス、
 チユベルケル、及ヒ其續症ハ、近世諸家大ニ講究ス
 ル所ニテ、解剖検査、精密ニ至レリト雖、之ヲ論説
 スルニ方テハ、各家其趣ヲ異ニス、故ニ今余スク
 ラント氏ノ所説、及ヒ其所驗中、彼此ヲ摘記スル
 一左ノ如シ、
 スクラント氏曰ク、チユベルケルハ、纖維質腫瘍ナ

リ、ロキタシスケイ氏等ノ稱スル纖維狀チユベル
 ケルヲ分泌ス、夥シク細胞ヲ生シ、核、及ヒ母胞ア
 リ、ロキタシスケイ氏等、纖維狀チユベルケルニ於
 テ、之ヲ見ルトスルハ、余カチユベルケルノ症候
 トスル者ト、其諸症成分ノ不全發生ニ、絶テ十
 ハ異ナリ、
 全ノ發生ニ非ス、所謂チユベルケル纖維狀ハ、髓癌ニ
 モ、表皮腫瘍ニモ、之アリ、畢竟凝固セル纖維質ニ
 成ル腫瘍ヨリ他ナシ、但シ其形狀、經過、各自ノ別
 アルヲ以テ、之ヲ區別スルヲ要ス、則チプラスチ
 セチユベルケル、コロウペウセチユベルケル、是ナリ、
 其症左ノ如シ、

プラステチセチュベルケル症候、多クハ沔乙膜表面、
胸膜、腹膜ニ生ス、小ニノ灰白色、半透明、頗ル硬ク、
漸ク發成スレハ、破裂シテ纖維トナリ、終ニ變シ
テ纖維狀組織トナリ、纖維ヲ成形スルナリ、器械
ノ組織内ニ、此種ノチュベルケルヲ生スルト少ナ
キ所以ハ、此部ニテハ、其變化顯著ナラスノ、直チ
ニ滋養過多トナレハナリ、但シ沔乙膜ニテハ、纖
維質腫、假膜等顯著ナリ、其成形スル者乾固スレ
ハ、之ヲ化角ト稱ス、則チ灰白チュベルケルノ原基
ナリ、然ルニ衆人誤テ之ヲ新生未熟チュベルケル

トシ、後種ノ初期ナリトス、又化角スルトアリ、既
ニ此期ニ及ヘハ、之ヲ復故スルト能ハス、此チュベ
ルケルハ、軟解スルトアル者ナルヤ否、之ヲ決ス
ルト能ハス、是レ理學ニテハ解ス可ラサレ、凡之
ヲ實驗ニ徵スルニ、軟解スルトナク、或ハ之アル
モ極テ少ナリ、然レ凡理學ニテモ、實驗ニテモ、後
件ハ同一ナリトス、肺勞ハ決シテ灰白チュベルケ
ルヨリ生スル者ニ非ス、其軟解スル者ハ、小空隙
ヲ生シ、プラステチセ纖維質機性化ス、凡ハ、治愈スルニ
ハ必須ナリ、

コロウペウセチユベルケルハ、前種ニ比スレハ、疎脆ニシテ、稍透明ナラス、是レ決メ機性體トナル者ニ非ス、然レ此少時ノ後、沉底ス、但シニ様ノ變化アリテ、尋常チユベルケルト異ナルトナシ、一ハ加爾基性變質一ハ軟解ナリ、而シテ軟解ハ、プラスチセ纖維質ヲ分泌スルトナキカ故ニ、其機能持續シ、漸次ニ軟解スルナリ、此類ニ屬スル者ハ、一二ノ灰白チユベルケルナリ、是レ其分泌スルニ及テハ、外貌前種ノ如クナレ、後コロウペウセチユベルケルノ本色ヲ顯シ、黃色トナル、是レ游離セル

脂肪、微細ニ分析シ、腫内ニ散蔓スルニ由ル所ナリ、新成纖維質内ニハ、之ヲ見ルト少ナシ、纖維質滲出ヨリ、コロウペウセチユベルケルヲ生スルハ、都テ纖維質ト同シク、固有ノ性質アリテ、コロウペウセニ論スル者ノ如シ、或ハ速カニ凝結スルアリ、或ハ凝結スルト遅徐ニシテ、凝固性纖維質収縮シ、渾濁シ、或ハ細胞體既ニ成形スルニ及テ、始テ成ル者アリ、此景況ヲ以テ、其成分ヲ察知スヘシ、顯微鏡ニテチユベルケルヲ見ルニ、頗ル硬ク、粘稠半透明質ノ外、更ニ上ニ記スルノチユベ

ルケル體アリ、之ヲ説クニ、諸家一ナラス、或ハ之ヲ一種ノ物ナリトシ、或ハ偶然ノ混和物、殊ニ速カニ凝固スルニ成ル者トス、此説最モ理ニ近シ、以テチユベルケル體ノ、プラスチセチユベルケルニ多ク、コロウペウセチユベルケルニ少ナキノ理ヲ悟ルヘシ、此コロウペウセチユベルケル黄色トナルハ、常ニ微細ニ分拆スル脂肪成分ヨリ成ル者ナリ、

是ニ於テ、プラスチセ、コロウペウセ、灰白色、黄色チユベルケル名稱ノ起ル所以ヲ領解スヘシ、此他

ノ名稱ハ、唯凝固スル纖維質ニ由ル所ノミ、腺腫又腺球ト稱スル者ハ、圓ニノ突起セル腫瘍ノ總稱ナリ、新生灰白色ノチユベルケル、小ニノ散發スレハ、之ヲミリアイルチユベルケル、又チユベルケルクラニユラチート稱ス、組織中ニ於テ纖維質凝結シテ収縮スレハ、突起セスノ唯硬固トナル者、之ヲチユベルキユレウセイニヒュルトラチート稱ス、又チユベルケル甲種ヨリ、乙種ニ轉スルヲアリ、新生チユベルケル終ニ黄色トナリ、灰白色ヲ發シ、漸ク細胞體ヲ成形シ、以テプラスチセチユベルケルノ

徵ヲ顯スルアリ、又黄色トナリ、成形セスノ、剥脱
 シ、明ラカニコロウベウセ性ヲ見ル者アリ、此ノ
 如キノ變ヲ生スルハ、肺勞患者ニ於テ見ル所ナ
 リ、則チ黄色チユベルケルノミニテ、灰白色ナキ者
 アリ、又灰白色チユベルケルノミノ者アリ、若シ夫
 レ灰白色チユベルケルハ、乾固スル者ナリトセハ、
 常ニ化角、灰白チユベルケルヲ生スルヲ多カルヘ
 キナリ、然レ凡、殊ニ病機進歩スルニ於テハ、單ニ
ヲ以テ説ク灰白チユベルケルノ内部、黄色軟解ス
可キニ非スル者アルノ理ヲ知ルヘシ、此中點ハ腫瘍中ノ舊
 部ニテ、脂肪分拆シテ、軟解スル者ナリ、此際其部
 死敗セサレハ、周圍ノ部、漸ク此ノ如キノ變ヲ受
 ルナリ、是ニ於テ灰白チユベルケル軟解セスノ、先
 ツ黄色チユベルケルニ變スル者アリ、故ニ黄色チ
 ヌベルケルヲ、灰白チユベルケルノ發成變化ナリト
 シ、又多クハ核、或ハ細胞成形ナリトスルハ、誤ナ
 ルヲ知ルヘシ、是レ却テ軟解消滅ニ陷ルノ退歩
 ナリ、核又細胞成形ハ、唯外貌ノミ、何トナレハ、其
 原質ハ、既ニ夙ニ存スル者ニテ、軟解スレハ、分解
 シ、膨脹シ、顯著トナリ、兼テ周圍ノ焮衝ヨリ膿體

部ニテ、脂肪分拆シテ、軟解スル者ナリ、此際其部
 死敗セサレハ、周圍ノ部、漸ク此ノ如キノ變ヲ受
 ルナリ、是ニ於テ灰白チユベルケル軟解セスノ、先
 ツ黄色チユベルケルニ變スル者アリ、故ニ黄色チ
 ヌベルケルヲ、灰白チユベルケルノ發成變化ナリト
 シ、又多クハ核、或ハ細胞成形ナリトスルハ、誤ナ
 ルヲ知ルヘシ、是レ却テ軟解消滅ニ陷ルノ退歩
 ナリ、核又細胞成形ハ、唯外貌ノミ、何トナレハ、其
 原質ハ、既ニ夙ニ存スル者ニテ、軟解スレハ、分解
 シ、膨脹シ、顯著トナリ、兼テ周圍ノ焮衝ヨリ膿體

ヲ混シ、以テ鑿別シ難キニ至ル、

黄色チュベルケル、常ニ軟解スルニ非ス、灰白性ニ於テ、畧説スルカ如ク、亦能ク加爾基性ニ化スルナリ、チュベルケルアモルプ、及ヒ結晶脂肪游離シテ、軟解シ、黄色トナルノ後、加爾基核ヲ生ス、而ノ漸ク增多スレハ、其全體悉ク加爾基トナル、チュベルケル此ノ如キ變化ヲナスハ、衆皆疑ハサル所ナリ、ロキタンスケイ氏ハ、灰白性ニハ之ナシトスルハ當ラス、
チュベルケルノ真形ヲ論スルニ、スクラント氏ハ、

古來ノ誤説ヲ辨駁シ、一大疑團ヲ解ス、抑モ一種

ノ滲出液アリテ、チュベルケルニ變シ、則チ之ヲチュベルケル質ト稱スヘキ者、實ニ之アルヤ否、但シ一種ノ滲出液ヲ生スルノ原ハ、一種ノ血液調和變異ナリ、此滲出ノ性ヲ論スルニ、人多ク勞思スレ氏、焮衝後頓カニチュベルケルヲ生スル肺焮衝後、肺ノチュベルケルハ、何ノ故ニ由ルヤヲ知ルナシ、故ニ顯著ナル焮衝ノ滲出ニハ、血液調和大ニ變異シ、滲出液ニ一種ノ舍密性ヲ賦與スルト云フニ過キス、スクラント氏ハ、之ヲ論スルニ、單簡ナル説

ヲ以テス、固ヨリ古來ノ疑義ヲ明拆スルニ足ル
 ニ非サレバ、亦以テ大ニ益アリ、而ノチユベルケル
 成形ヲ説クニ、炊衝滲出ト同理ヲ以テス、各種ノ
 纖維質ヲ含ムノ液ハ、則チユベルケルノ原トナル
 ナリ、チユベルケル固ヨリ滲出スル者ニ非ス、夫レ
 滲出トハ、脈管ノ腠理ヨリ滲出スル者ヲ云ナリ、
 此液中ヨリ生スル者ハ、無形ノ纖維質モ、細胞體
 纖維等モ、既ニ滲出ト稱スヘキニ非ス、筋纖維、神
 經纖維、固ヨリ滲出スル者ニ非ス、チユベルケル亦
 然リ、是ニ於テチユベルケル成形ハ、其滲出何等ナ

ルモ、尋常營養ヨリスルモ、或ハ多血、或ハ真炊衝
 ヨリ起ル者モ、別アルナキヲ知ルヘシ、唯滲出
 愈速カニ、愈多キ者ハ、チユベルケル成形スルヲ、愈
 速カニ、愈多シ、是ヲ以テ肺炊衝後、肺藏頓カニ
 チユベルケル充盈スルヲアルヲ悟ルベシ、
 滲出ノ全部、或ハ一半、チユベルケルトナルノ理ハ、
 纖維質ハ大ニ凝固スルノ性アリテ、相吸引スレ
 ハ小堅體トナリ、更ニ其表面ノ凝質ヲ促カシ、之
 ヲ増加ス、此ノ如ク凝固スルハ、固性組織部、結合
 組織線、細脈管、水脈ノ周圍ニ於テシテ、チユベルケ

ルトナルヲ見ル、纖維質凝収固定スレハ、洵乙ヲ
 驅逐シ、其凝固物、乾燥シ、以テ他ノ纖維質ノ機性
 體トナルヲ妨ク、然レモ此ノ纖維質ノ凝収力ヲ
 亢起スルハ、何等ノ原ニ由ルヤ、未タ之ヲ詳カニ
 スルトナレ、茲ニ二説アリ、其一ハロキタンスケ
 イ氏ノ如ク、纖維質固有ノ敗血性凝収力ニ由ル
 トス、其二ハ滋養液、又燼衝滲出液、一種ノ性ヲ具
 スルニ由ルトス、此二説共ニ全カラズ、何トナレ
 ハ、纖維質固有ノ凝収力増進スルハ、何ニ由ルヤ
 ヲ知ルト勿レハナリ、第二説最モ據所ナレトス、

スクラント氏、此二説ヲ併セ採テ、チユベルケル敗
 血、及ヒ局部神經力、相關係シテ、滋養機ヲ變シ、チ
 ヲルケルヲ發スル者ナリトス、其變唯局部ノミ
 ニ在テ、全身ニ關係スルト勿レハ、單純局部チユベ
 ルケルヲ生ス、然レモ此ノ如ク常ニ畫限スル者
 ニ非ス、猶局部燼衝、交感シテ全身燼衝状トナル
 トアルカ如ク、纖維質滲出、及ヒ其凝結スルモ、初
 起ハ唯局部症ナレモ、終ニ全身血液ヲ變敗シ、纖
 維質滲出ト、凝収トヲ增多シ、局部ノ血質ニ關カ
 ラサル、變動ヲ起シ、恰モ泡釀スルカ如クニ、全

血量ヲ變敗シ、終ニ凝固性纖維質ノ單純偶然ナル收縮ヨリ、真ノチユベルケル敗血ヲ生スルナリ、夫レチユベルケルト、スクロヘルト又同一ナリトスルノ説ハ、古來妄リニ之ヲ辨論スルノ繁冗ニ渉ル者トハ、全ク相反スル單簡ノ意ニ出ツ、抑モ民間ニテ腺病ト稱スルノ名、醫家亦之ヲ汎用シ、終ニ水脈腺ノ諸疾患ヲモ、併セ稱スルニ至レリ、近世解剖ノ學精密トナリ、チユベルケルヲ檢査スルニ詳悉ニメ、之ヲ顯微鏡ニ照ラシ、或ハ之ヲ同一ナリトシ、或ハスクロヘルヲ取ラサルニ至レ

リ、スクロヘルノ名稱、極テ博シ、故ニ之ヲ辨別シテ、顯ニ他因ニ由ル者トヲ混スルヲ勿レ、此類ハ一近部焮衝疾患ニ續發スル水脈腺腫起、二真ノ滋養過多ノ續症ナル腺膨腫、三徽毒、癌毒ノ如キ、定類敗血ヨリ發スル腺腫、四水脈腺チユベルケルナリ、而メスクロヘル毒ト稱スヘキ者ナシト雖、尚某ノ腺腫、皮下寒腫瘍、眼焮衝、粘液漏泄、關節病ト相關係スル者アリ、

原因

一遺傳 チユベルケル、スクロヘル、共ニ遺傳スル

者ナリ、但シ何レノ症モ皆必ス遺傳ナリト云フ
ニハ非ス、父母此病アレハ、之ヲ子ニ傳與シ、胎兒
既ニ此毒ヲ感受シテ、顯著ナル症ヲ帶テ生下ス
ル者アリ、是レ極テ或ハ幼稚ノ時ニ方リ、或ハ情
慾發動ノ期ニ及テ、始テ發見スル者アリ、但シ他
ノ誘發ノ因アリテ、素因ヲ挑起スルニ由ルナリ、
又誘發スルノ因ナケレハ、能ク其遺傳ノ素因ア
ルモ、發動スルヲナシ、凡ソスクロヘルノ遺傳ハ、
ヒリッブ氏曰ク、チュベルケルニ比スレハ少ナシ、
百中ノ四ノミ、二年齒 胎兒ニハ、肺チュベルケル極テ少ナシ、其

發生スルヲ最モ多キハ、幼年、少年ナリ、四歳至十
四歳ノ間ハ、四歳以前ヨリハ多シ、十五歳以後ハ、
二十歳至三十歳ノ間、三十歳至四十歳ノ間ヲ多
シトス、而メ三十歳ニ至ルマテノ間、死スル者多
キノ極ナリ、但シ老人皆必ス不死ニ非ス、
スクロヘルハ、殆ント兒時ヨリ成童マテノ固有
病ナリ、大人ニハ稀ナリ、
癰癤トハ頰下、頸部ノ腺、腫起スルナリ、然レ疔
便毒、疔瘡等ノ如キ、顯著ナル原因アルニ非ス
ノ、發スル所ノ腺腫、皆必シモ之ヲ癰癤ト稱ス

凡所遺傳病
腺病
五
初

へキニ非ス、何トナレハ、スクロヘル病ヲ發ス
 へキ年齒ニ方テ、腺腫ヲ發シ、而ノ少シモスク
 ロヘルニ關係ナキ者屢之アレハナリ、頭部、面
 部、頭瘡、皮疹ヲ生シ、其周圍ノ列印巴腺、腫起ス
 ル者アリ、口中腐爛スルニ由テ、頰下腺腫起ス
 ル者アリ、皆是レ近傍刺戟ノ交感ニ起ル者ニ
 ノ、交感便毒ノ如ク看做スへキ者ナリ、又大人
 諸部列印巴腺、腋下、鼠蹊、頸部等、スクロヘル素
 因ナキ者ニ、腺腫起スルヲアリ、是レ全身黴毒
 ノ續症交感便毒ニテ、尿道疳瘡ヲ知ラサルノ間ハ、

妄リニ之ヲ淋疾ナリトシ、淋毒スクロヘルト
 稱スルニ至ル者ナリ、又大人黴毒ニ非スノ、腺
 腫スルヲアリ、世之ヲスクロヘルトスレバ、皮
 膚及ヒ粘液膜他部ニハ、少シモ其症ヲ發セサ
 ル者アリ、此ノ類婦人ニモ亦之アリテ、生殖機
 ト相係合スルアリ、則チ經行間、妊娠中、殊ニ産
 後ニ之ヲ發ス、余此ノ如キ者五人ヲ驗ス、兒時
 スクロヘル病ヲ惱ミタル者、一人ノミ、
 三種族 諸地官吏ノ驗スル所、チユベルケル病ハ、
 婦人ハ男子ヨリ多シ、患者九千五百六十九人内、

婦人五千五百八十九人、男子三千九百八十人ナ
リ、ロムバロイス氏曰ク、九十一人婦ト、七十二人男子ト
ノ如シ、

四外來諸因 スクロヘル、及チユベルケルヲ誘發
スル所以ノ原ハ、補給機ヲ變異スル者ナリ、食餌
粗惡、消化機ニ適セサレハ、滋養細管ノ末梢ヨリ、
敗液ヲ血中ニ賦與シ、以テスクロヘル、又チユベル
ケルノ根基トナル、殊ニ植物ノミヲ食スレハ、大粗
粉質、粘膩此病ヲ發シ易シ、腸ノ機能ヲ衰憊セシ
難消化物ムル藥品、亦同害アリ、單ニ滋養不佳ナルハ、他ノ

原因ノ如ク、是ノミニテ敗血ヲ生スルニ非ス、又
他ノ誘因、相合併スルニ非サレハ、敗血ナルモ、能
クスクロヘル、及チユベルケルヲ發スルヲナシ、又
霧氣不潔、鬱閉、濕潤、光素乏少等、同害アリ、害内、大
都會、人家稠密ナル陋巷、隘室、狹窄、昏暗、多霧濕潤
ナル山谷、空氣交通シ難キ諸地、聚人雜踏ノ地等
ハ、スクロヘル、及チユベルケルヲ誘發ス、高燥開達
ノ地ニモ、他ノ誘因アレハ、此病ヲ發スルトアレ
氏、之ヲ他地ニ比スレハ、大ニ少ナシ、ヒュムボルド
氏ハ、霧氣中越列機缺乏スルヲ、スクロヘル病ノ

一誘因ナリトス、

房事、手淫、諸般ノ神經病、重病、産後ハ、生活機能
ヲ一變スル者ナリ、故ニ此等ノ原因アレハ、速
カニチユベルケル發動スルナリ、又諸般ノ疾病
大ニチユベルケルト親和シ、之ヲ誘發シ、又之ニ
續發スルアリ、麻疹、百日咳、是ナリ、痘瘡、牛痘ハ
或ハ之ヲ誘發スルアリ、

チユベルケル敗血ハ、他ノ敗血ト合併スル者ナ
ルヤ、未タ之ヲ詳カニセス、但シチユベルケル發
成物、他病ノ形狀ヲ取ルアリ、例之黴毒、皮結腫、
腦結腫、

ノ如シ、余之ヲ怪マス、何トナレハ、チユベルケル

毒ハ、所謂チユベルケル狀ト稱スヘキ者ニ非ス

ノ、畢竟平時或ハ病時出滲組織之形狀變異アル

ハ、敗血ノ人ニ於テハ、容易ニ之ヲ發スル者ナ

レハナリ、ロキタンスケイ氏曰ク、癌毒敗血ト、

チユベルケル敗血トハ、相防禦スル者ナリト、他

氏ハ之ヲ非トス、トレベルト氏、又曰ク、血液ヲ白色ト

ナラシムル諸病、心藏肥大、心室左右交通ノ血

路閉塞セス、胎兒ニハ之アレハ、則チ閉塞スヘキ者ナリ、

大動脈ノ動脈腫、肺氣腫、脊椎佝僂、古列刺、室扶

斯等ハ、チユベルケルヲ防禦スト、

五 霧氣性質 濕潤寒冷、時氣驟變ハ、チユベルケル

敗血ヲ發ス、然レ此病ハ、何レノ地方ニモ、北方、南方、

東方、西方、氷海ノ地、回歸線下、之アリ、頸腫及ヒ間

魯西亞、西印度等ニモ之アリ、然レ此病ヲ發シ易キ

歇熱、地方病タルノ地ニテハ、チユベルケル少ナシ、

然レ此病ヲ發シ易キハ、南方ヨリ北方ニ轉住スル人、中亞非利加ヨリ

則倫ニ來ル者、又炎熱ナル坦比ヨリ寒冷ナル北

亞非利加ニ移ル人ナリ、又熱地ヨリ寒地ニ齎ラ

シ來ルノ獸類、此病ニテ斃ル者多シ、

六 職業 是レ大ニチユベルケルヲ促カシ發スル

者アリ、但シ肺藏ノミニ感スル者ト、全身ニ感ス

ル者トノ別アリ、坐業、氣息ヲ張テ、一部ヲ勞役ス

ル者、鬱閉シテ塵埃、土類、金屬ヲ含ム氣ハ、大ニ害

アリ、故ニ諸職業局、外氣交通不佳ナル地ニテハ、

チユベルケルヲ發スル者多シ、之ニ反シテ動物ノ

蒸氣ヲ含ムト多キ氣内ニ在ル者、例之、牧奴、御者、

漂工、漁者、騎兵、田夫等ニハ、此病少ナシ、抑此諸輩

ハ、常ニ肉食多ク、運動多シ、是著目スヘキ要件ナ

リ、恐ラクハ、諸母尼亞運動ハ、補給機ヲ盛ニスル

泉病

ノ要件ナリ、運動少ナケレハ、忽チチユベルケル、又
スクロヘルヲ發スル誘因トナル、

チユベルケル敗血ノ素因アル者其毒隱伏シテ未
タ發見セサル者

ニ於テ、彼此ノ部之ヲ發スル所以ハ、何等ノ因ニ
由ルヤ、是レ前ニ既ニ屢説クカ如ク、年齒、及ヒ諸

般ノ機能發動スルハ、各自ノ部ニ於テ差異アリ、
其部機能發動ノ期ニ方テハ、最モ此病ヲ發シ易

シ、一部ノ景況常ヲ失シ、努力勞役、非常ノ刺戟、機
能障害、創傷、多血、焮衝等ハ、已ニ敗血ノ素因アル

者ニ於テハ、血液ノ引カ、又チユベルケル質ノ引カ、

及ヒ排泄ヲ誘起スルノ因トナル、



單純ナルチユベルケル敗血ヨリ生スルチユベルケ
ル質ハ、直チニ傳染毒ヲ含ム者ニ非ス、スクロヘ
ル、及ヒチユベルケルヲ接スルモ、終ニ感セス、

近時ウエルテーム氏、ウエー子ニテ、チユベルケル
毒ヲ採テ、之ヲ犬ニ接スルニ、感受セス、之ヲ試

ムルヲ數回ナルニ及テ、感染スル者纔カニ一
回ノミ、健康人ノ咯出スル痰液、又チユベルケル

ニ非サル腐骨ノ膿ハ、之ヲ接スルモ、絶テ感染
スルヲナシ、

侃斯達篤卷七 腺病 三 初白樓梓

然レ凡慢性溶崩敗血ノスクロヘル、又チユベルケ
ル患者ヲ圍繞スル氣ハ、其毒ヲ帶フルヲアリ、夫
レ不潔ノ氣ハ、チユベルケル病ノ發因トナルヲ、疑
フ可キニ非ス、是レ此病ノ傳染スルヲアルヲ了
解スルニ足ル、

經過、及終歸、

スクロヘル、及チユベルケル、多クハ慢性ナリ、然レ
凡急性症亦ナキニ非ス、

チユベルケル排泄、極テ速カニ大ニ蔓延シ、隨テ
患部機能衰脱シ、生命ヲ保持スルヲ能ハサル

ニ至ルアリ、或ハチユベルケル少時間ニ軟解シ、
廣部壞敗スルアリ、凡ソ少壯ノ年齢、暴惡ノ時
令、刺衝性ノ人ニ於テハ、經過疾速ナリ、或ハ病
毒ノ排泄スルニ、間歇定時アリテ、同一人ニ於
テ、各種ノチユベルケルヲ生スルアリ、故ニチユベ
ルケルノ發生ニハ、必ス休歇ノ期アリ、是レ復
治スルニ易キヲアル所以ナリ、
局部チユベルケル毒ノ治愈スルハ、唯全身敗血治
スルノ後ニ在ルナリ、全身敗血治法ヲ施コスニ
ハ、チユベルケル局部排泄、幾何進歩スルヤ、何レノ

器ニ於テスルヤ、其費耗ヲ償フヘキ者幾何ナル
 ヤヲ知ルヲ要ス、肺藏損傷アル者ハ、全身敗血治
 ヲ得ルモ、尚未夕生命ヲ保持スルヲ能ハス、局部
 症未夕此ノ如キノ甚タレキニ至ラス、敗血尚能
 ク救フヲ得ヘキ者ハ、自然ノ妙機運營醫治ヲ加フル
 ナキモ、良能治カノミニテ、能ク費耗ヲ補繕シ、患
 部ヲノ平態ニ復セシム、

良能、局部症ヲ治スルノ方法一ナラス、其已ニ
 空隙ヲ生スル者ト、チユベルケル未熟ナルトニ
 隨ス

一、チユベルケル空隙、被フニ薄膜ヲ以テシ、其表
 面常ニ膿トチユベルケル毒ヲ醸ス、敗血復治ス
 レハ、薄膜骨質ノ者、纖維狀トナリ、チユベルケル
 毒ヲ醸スノ機廢止ス、空隙ノ側面相近接シ、隨
 テ空隙萎縮シ、從前壓迫セラレ、ノ部復夕膨
 脹ス、或ハ側面相愈着シ、斑痕ヲ遺ス、而シテ斑痕
 中、土塩ヲ排泄ス、肺ニハ黑色分ヲ排泄スルヲ
 アリ、空隙常ニ愈閉スルニ非ス、側面肥厚トナ
 リ、更ニ復夕チユベルケル毒ヲ排泄セス、空内或
 ハ湧乙、或ハ傑列乙、或ハ纖維質アルアリ、

二上ニ記スルカ如ク、チユベルケル萎縮シ、或ハ加爾基狀トナルアリ、

スクロヘル敗血、又チユベルケル敗血、治ヲ得ル者ハ、病機抵抗漸次ニ退除シ、全身諸機一變シ、消化健運、滋養旺盛、諸分泌、諸排泄常ニ復ス、但シ實ニ全治スル者ト、其一時抵抗休止スル者夏トヲ混スルト勿レ、身體諸機一變スルノ時ニ方テ、情慾發動ノ時、妊孕中、病機復治シ、或ハ全ク消滅スル者屢之アリ、此時則チ醫治ヲ加フルニ好時期ナリトス、是レ全身ニ効ヲ奏シ易ケレハナリ、

チユベルケル又スクロヘルニテ死スルハ、一貴要

部損害、排泄物ノ刺戟ニ機能障害、腦壓迫、肺閉塞三血液

變敗、消耗、水腫ニ陷ルニ由ル、

預後

チユベルケルハ、難治ノ敗血病ナリ、醫力達ス可ラサル者多シ、スクロヘルハ、稍易シ、但シ或ハ除ク可ラサル障害アリテ、醫治ヲ妨クルトアリ、敗血體中ニ根據スルト愈淺ク、蔓延スルト愈廣カラス、局部チユベルケル成形其部愈貴要ナラス、全身景況愈佳ナル者ハ、治ヲ得ルト愈速カナリ、然レ凡チユベル

ケル成形大ニ蔓延シ、貴要部肺、腦、ニ及ヒ、已ニ軟解ノ期ニ向フ者ハ、治ヲ得ルヲ愈少ナシ、遺傳ノ者、敗血顯著ナル者、兒尚幼稚ナル者、經過急速ノ者ハ、皆危フシ、内部チユベルケル症ニ於テ、外貌常ニ復シ、滋養整然トナルハ最佳ノ徵ナリ、

治法

チユベルケルト、スクロヘルトハ、同一病ニ非ス、相親密類似スル者タルヲハ、既ニ説クト雖、今此ニ病ノ治法ヲ併セ記スヘシ、然レ下ニ掲クル諸品ハ、皆スクロヘル病ニ効アル者タルヲ知ルヘ

シ、何トナレハ、チユベルケル病ヲ治スルノ藥品方法、未タ知ル所勿レハナリ、治法ニ全身病ヲ治スルト、局部症ヲ治スルトノ別アリ、局部症ハ、腺毒排泄ニ由テ生スル者ナリ、其全身治法ハ、遠因ヲ驅除シ、之ヲ中和スル者ニテ、預防法、根治法、直治法、妙効法、ノ名アリ、
一原因治法

原因ヲ治スル藥劑ノ員數ハ、其原因ノ員數ノ如シ、遺傳性素因アル者トハ、勉テ婚嫁ヲ議スルヲ勿ルヘシ、然レ父或ハ母此病アル者ナレハ、其

兒ヲ養育スルニ方テ、病根ヲ撲滅スルノ策ヲ施
 コスヘシ、母此病アル者ハ、決シテ兒ニ哺乳スル
 一勿レ、必ス健全ノ乳母ヲ撰フヘシ、母或ハ乳母
 毒アルレハ、乳
 汁ヨリ能ク其毒ヲ兼テ外氣ヲ清潔ニシ、寒冷濕
 兒ニ賦與スルナリ、兼テ外氣ヲ清潔ニシ、寒冷濕
 潤ヲ避ケ、皮膚ニ注意シ、浴法ヲ施コシ、後ニハ冷
 水ニテ屢皮膚ヲ洗フヘシ、總テ適宜ノ養育法ヲ
 施コシ、體格既ニ其素因アルヲ知ル者ニハ、病ノ
 發生ヲ防拒スルノ諸法ヲ兼子施コシ、體質ヲ強
 壯ニシ、其年齡及ヒ症狀ニ應シテ、適宜ノ法ヲ處
 シ、運動、冷浴法、海水浴、旅行、山居等ヲ命スヘシ、諸

般ノ平時分泌ヲ催進スルハ、腺病素質ノ者ニハ
 必須トス、何トナレハ、之ヲ閉塞スルコトアレハ、病
 機發動ヲ誘起スレハナリ、故ニ大便ヲ通利シ、蒸
 氣ヲ催進シ、感冒ヲ防キ、女子ニハ、經行ニ注意シ、
 天癸始テ至ルノ期ニ於テハ、最モ然リ、産後惡露
 亦同シ、食餌ハ年齡ト體質トニ應スヘシ、消化シ
 難キ諸品ハ、皆之ヲ禁ス、乳兒ニハ乳ヲ與ヘ、稍長
 スル者ニハ、乳汁ト肉羹汁ヲ與ヘ、後漸ク動物品
 ト植物品トヲ併セ與ヘ、遲鈍性ノ者ハ、緩和品ヨ
 リハ刺戟品ヲ堪フル者ナリ、虛弱ノ者ニハ、適宜

ノ肉食ヲ命スヘシ、總テ其人ノ體質ニ應シテ之ヲ撰フヘシ、血液調和宜シキヲ得ル所以ハ、消化機之ヲ預備スルニ由ルナリ、食餌過多ナルハ、不給ナルヨリハ害アリ、消化失宜ノ原、消化器系ニ在ル者ハ、勉テ之ヲ治スヘシ、胃腸運營宜シキヲ得ルニ及テ、食餌及ヒ藥品能ク血液製造ヲ良全ナラシムルナリ、

食餌ヲ一變スルノミニテ、全身補給機ヲ變調シ、大ニ効アル者少ナカラズ、軟脆ニシテ消化シ易キ食餌ヲ與フレハ、既ニ衰弱セル人ヲ復治スルニ足ルナリ、食品ヲ撰フニ亦區別アリ、甲

品効ナクメ、乙品効アルアリ、故ニ乳汁療法、馬、乳、野牛乳、單用、或ハ水ヲ和シ稀ノ用フ、新絞ノ品、或ハ酪ヲ去ル者、酸敗液アル者ニハ、セルチエ

ル水堪ヘ得ルノ 湯乙療法、單用、或ハセルチエ

量ヲ和シ用ス、 山地ニ住居シ、礦水ヲ飲用スルヲ最モ佳トス、ス、ガイニス、サルス、ブロン、クレト、イニスル等ノ

傑列乙療法、動物膠、植物膠、生蝸牛、牡蠣、苔類、依蘭苔膠、イエルセ苔膠、等皆効アリ、

米療法、又沙列布、亞兒 肉食療法、草類療法、春時

參、連錢草、黥失刺護、草黃連、蒲公英、麻爾羅歌、芦根等ノ新搾汁、殊ニ乳清ヲ兼用スルヲ佳トス、 菓實療法、覆盆子、等ヲ撰用スヘシ、 不潔ノ氣、暗所閉居、聚人羣居、濕潤卑低ノ地、大都

凡所建書卷七 眼病

會ノ陋港等ハ之ヲ避テ、空氣開達ノ地、田野、山林
 ニ轉居スルハ、腺病治法ニ必須ノ要件ナリ、夫レ
 如何ナル地方ハ、チュベルケル、及スクロヘルニ最
 佳ナルヤ、高燥、南方、温暖ノ地ニ、樹木繁茂スル
 所ニハ、チュベルケル病少ナキヲ以テ、最モ佳ナリ
 トス、但シ地方佳ナリト雖、患者攝生保護ニ必須
 トスル物件ニ缺クト勿ルヘシ、其地方能ク患者
 ニ適スルモ、温室器、及其他品缺如スルキハ、時氣
 驟カニ變スルニ方テ、之ヲ防クノ策ナケレハ、地
 方ノ益アルモ、其害ヲ償フニ足ラサルコトアリ、

チュベルケル、又スクロヘル患者ニハ、如何ナル
 地方ヲ佳ナリトスルヤ、諸家ノ說一ナラス、加
 奈里諸島^{刺麻}的ヘエレス、南佛蘭西、蒲桃牙、私巴
 尼、以太利、アルギールス、厄日度、東西印度ハ、或
 ハ佳ナリトスルアリ、又不佳ナリトスルアリ、
 余之ヲ決スルコト能ハス、住地ヲ轉シ、患者ノ體
 質ヲ一變スルニハ、必シモ遠地ヲ佳トスルニ
 非ス、唯雨濕ノ時令間ノミ、温冷不整ノ地ヲ避
 テ、温暖乾燥ノ地ニ轉移スルヲ以テ足レリト
 スルコト屢之アリ、則チ患者冬月ハ家居シ、夏日

ハ旅行スヘシ、海路ハ陸路ニ勝レリ、身體動搖、
 景色轉變、數日數週間ニ、諸般ノ土地ヲ經歷シ、
 海路ハ、岸ニ沿テ佳トス、海氣海上固有ノ越列機、攝生一變、
 意思變動、船中消化機増進、凡ソ此諸因相合シ
 テ、補給機ヲ一變スルナリ、輕易ノ注船病ハ、食
 慾ヲ減セズ、却テ之ヲ增多ス、然レモ是レ唯素
 因アルノミニテ、未夕顯著ナル疾患ヲ發セサ
 ル時ニ於テ云フナリ、又航海スルニハ、時期ヲ
 撰フヘシ、又旅行中、他病ニ感スルヲ防クヘシ、
 航海ハ實ニ良効アリト雖、患者絶テ船ニ乗ル

トヲ得サル者、又病既ニ進歩スル者ニハ、之ヲ
 命スルト勿レ、
 以上記スルカ如ク、此患者ニハ運動ハ偉効アリ、
 是レ曾テ舍電華謨氏説アリ曰ク、チユベルケル病
 ニ、騎馬ノ効アルハ、猶間歇熱ニ、吉那ノ効アルカ
 如シト、小兒ハ、時々遊戯角力浮泳等ヲナサシメ
 テ、其筋力ヲ發セシムヘシ、病進歩スル者ニハ、強
 壯運動ヲ禁シ、靜養攝生法ヲ取ラシムヘシ、夫レ
 運動努力スルニハ、體中最モ衰弱シ、最モ疾患ア
 ルノ部ニ効アラシムヘシ、則チ腹部、脊椎、胸部ヲ

摩擦シ、揮發性拔爾撒謨劑ヲ塗擦シ、臂ヲ動揺シ、
 深息放聲、誦讀歌謠スル等、衣服ハ温暖ナルヘシ、
 感冒シ易キ人、時氣轉換ノ候ニハ、フヲ子ル製ノ
 襯衣ヲ着スヘシ、凡ソ繃帶、膝服、等緊搾スル所以
 ノ者ハ、皆之ヲ退久、チユベルケル素因アル小兒ニ
 ハ、夙ニ着目シテ、身體位置ヲ整正ナラシメ、動靜
 坐卧、身ヲ偏倚スルヲ勿ラシムヘシ、脊椎筋衰弱
 シテ、正シク體軀ヲ支柱シ能ハサル者ハ、適宜ノ
 器械ヘイステルヲ以テ之ヲ支柱シ、發育十全ナ
 ルニ至ルヘシ、皮膚ヲ清潔ニスルハ、各種ノ敗血

病ニ要件ナリトス、病未夕肺中ニ毒ヲ排泄セサ
 ルニ方テ、預防強壯法ノ最ナル者ハ、毎日冷河水
 浴、寒洗法ナリ、夏日ハ露天ニテ之ヲ施シ、冬日ハ
 適宜温ノ室内ニ於テス、浴法、及ヒ洗法ノ効アル
 一ハ、次テ發スル抵抗、温度増進、皮膚赤色、諸機活
 潑、食慾亢起スルヲ以テ知ルヘシ、浴後皮膚ヲ摩
 擦シ、外氣中ニ運動スレハ、抵抗ヲ増發ス、然レモ
 抵抗發起セス、浴後憎寒スル者ハ、姑ク之ヲ止ム
 ヘシ、海水浴ハ其塩分ト波動トニ由テ、更ニ良効
 アリ、極テ虚弱ノ者ニハ、先ツ微温浴海水ヲ温メ
テ、浴槽ニ入

ル、漸次ニ温度ヲ減シ、後冷浴ヲ施コスヘシ、但シ
身ヲ水中ニ投スルハ、少時ナルヲ法トス、多時
水中ニ浸漬シ、又頻回浴スレハ、却テ衰弱ヲ増加
スルヲアリ、浴後フテ子ルニテ、皮膚ヲ摩擦シ、後
揮發精液酒、火酒、洋芥精、硃砂揮發膏、龍腦揮發膏等、ヲ刷毛ニテ塗擦
ス、極テ虚弱ノ兒ニハ、香竄性及ヒ強壯性藥品、芳
香藥草、加密列、泥菖根ノ浴法ヲ施コシ、又麦芽酒
ヲ和シ浴ス、

身體努力、精神勞役、房事、手淫ハ、嚴ニ之ヲ禁ス、
二敗血直治法、即妙効治法、

全身補給機轉換、及衝動ハ、此治法ノ要旨ナリ、己
ニ有形排泄物アル者ニモ、尚之ヲ施用ス、何トナ
レハ、全身疾病治愈スルヲ後、始テ局部疾患治ヲ
得ル者アレハナリ、

妙効治法ヲ施コスノ前、先ツ原因治法條ニ説
クカ如ク、補給機運營ヲ妨クル事件及ヒ合併
症是レ直ニニ疾病ニ關係スルニ非サレハ、亦能ク本病ヲ持續スルニ足ルヲ常ニ之アリ
ヲ排除スヘシ、預備治法、消化機ヲ復シ、吐劑、下
劑ニテ、汚物ヲ排除シ、治法間ニ時々之ヲ施コ
ノ、腸内ノ粘液ヲ疎滌シ、
能ク藥力ヲ達セ、分泌排泄ヲ整正スル等ヲ要

ナラサルニ由ル所ナリ、夫レ沃實涅ハ之ヲ服
シテ、病體ト十分飽和スルニ至ラサレハ、未夕
以テ補給機ヲ一轉スルノ全効ヲ得ルヲ能ハ
サル者ナリ、故ニリュゴル氏ノ用法ハ、曾テコイ
ンデト氏、ホルメー氏、賞用スルノ丁幾劑ニ勝
ルヲ遙ナリトス、

方例、沃實涅五、沃度加里半、蒸餾水二、
右七歳以内ノ兒ニハ、毎用二滴、漸ク増テ五滴
ニ至ル、一日二回、七歳以外ノ兒ニハ、毎用十六
滴ニ至ル、糖水、半麦酒盞ニ和シ用フリュゴル氏

ハ更ニ輕量ヨリ始ム、半氏、四分氏ノ三、一氏、一

浴方小兒、沃實涅二、沃度加里八、蒸餾水四、

大人、沃實涅二、沃度加里四、蒸餾水六、右槽内ノ

水ニ和シ浴ス、更ニ其効ヲ盛ニスルニハ、食塩

二、三斤、苦塩二、三ヲ和ス、ス、コシレ、

コップ氏賞用スルノ強力沃實涅浴ハ、更ニ峻カ

ナリ、大人ニ施コスニハ、母滴塩三斤温湯ニ溶

ヲ加フ、浴槽ハ大ニ過クルヲ勿レ、之ニ浴スル

ト半時、至一時、此浴方ハ、三四回用ニ供スヘシ、

但シ毎回之ヲ温メ、新ニ塩三斤ヲ加フ、小兒ニ

其水十分ニ飽和スル者ナレハ、浴後皮膚一種ノ灼熱ヲ覺ユ、或ハ疹ヲ發ス、

ブカナシ氏ハ、刺戟ナキ二種ノ製劑ヲ賞用ス、

沃實涅粉、一錢ハ、沃實涅用法、每用四錢、至六錢、一日三四、

沃實涅水素酸、一錢ハ、沃實涅五分ニ同シ、一日一錢、至四錢、

沃度加里ハ、最佳品ナリ、刺戟少ナク、食慾ヲ奮

起シ、消化機失宜ヲ復ス、服用間、食慾減少スル

カ、或ハ胃瘻ヲ發スル者ハ、八日、十四日間、之ヲ

休止シ、少許ノ吉那丁幾ヲ與ヘ、且ツ室外ニ運

動シ、強壯食餌ヲ與ヘテ、藥力ヲ助クヘシ、

二 肝油、沃實涅ニ次テ此品ヲ掲ク、是レ其効能及

ヒ成分大ニ沃實涅ニ類似スレハナリ、但シ此油

抜羣ノ効アル所以ハ、必シモ含ム所ノ微量ノ沃

實涅ヲ以テ説クヘキニ非ス、用量、一日一琶布匙、

至三琶布匙、

肝油ノ効ハ、大ニ其脂分ニアリ、アスセルソン

氏、脂分ノ細胞體成形ノ機能ヲ説ク、以テ肝油

迅速ニ補給機ヲ盛ニスルヲ悟ルヘシト雖、他

ノ諸脂、諸油、亦此同効アルニ非サルカ故ニ、未

タ疑ヲ免カレス、催嘔ノ氣味アレハ、患者多ク

ハ之ヲ堪ワル者ナリ、且ツ胃カヲ害スルコト少
ナシ、消化機ヲ盛ニシ、滋養ヲ進ム、唯患フルハ、
患者之ヲ嫌惡スルナリ、但シ其量ヲ減スレハ、
能ク堪フル者ナリ、之ヲ單用シ得サル者ハ、他
品ヲ調和シ、其氣味ヲ變スヘシ、骨菲濃煎ニテ
含嗽シ、或ハ之ヲ飲用スルハ、最佳法ナリ、
ホルラント氏ハ、肝油ヲ用フルニハ、必ス間歇
ス、而シテ毎日ピセフ水ヲ飲用セシム、パンク氏
曰ク、肝油ヲ服スルノ始、其汗魚臭ヲ帶フト、
又單純油類、扁桃油等、内服塗劑、浴法、共ニスク

ロヘルニ賞用ス、然レニ彼ノ犬脂、馬脂、猪脂等
皆同シト雖、其効豈ニ肝油ニ比スルコトヲ得ン

三 水銀劑、スクロヘル患兒ニ偉効アリ、殊ニ甘頰

ヲ賞ス、單用、或ハ金硫黃ヲ配ス、各四分氏ノ

鳩答越幾斯、半氏、至一、至半氏又失

水銀劑ヲ禁ス、

四 安質母劑、金硫黃、越質阿布斯安質母等、共ニス

クロヘルニ賞用ス、有名諸劑、キynchケリ氏モルシ
イ氏清ノ主品ナリ、用量、生安質母、五氏、至十氏、金硫黃

四分氏ノ一、一日二三回、

方例、越質阿布斯安質母、越質阿布斯密涅刺列、

各二氏、糖六氏、右研和、每用一包、一日三回、二三歲

又方、剥倔福烏篤脂、越質阿布斯安質母、炭酸麻

倔涅失亞糖、各半錢、大黃末、右研和、每用一刀尖、

一日二三回、二三歲兒ノ量、

五 麻醉劑、殊ニ失鳩答、失鳩答越幾斯、每用半氏、至

量、多實芟答里斯、實芟答里斯葉末八分氏ノ一、四

或ハ金硫黃ヲ配ス、浸劑ハ實芟答里斯葉此諸劑

ハ鎮靜ノ効アリ、

六 亞爾加里塩、及ヒ土塩、殊ニ炭酸、及重炭酸、剥篤

亞斯、曹達、加爾基、麻倔涅失亞、或ハ人工泉ヲ製シ

用フ、最モ天造泉ヲ佳トス、後ニ詳説格魯兒集合

劑、塩酸曹達最モ効アリ、又礪砂、炭酸、諸母尼亞、塩

酸、抜列篤ハ、古人ノ賞用スル所ナレ氏、近時大ニ

其名ヲ失ス、塩酸加爾基亦然リ、

以上記スル所ノ諸品ハ、腺病敗血ヲ治スル有力

品ナリ、殊ニ天造泉ヲ最佳ナリトス、之ヲ施用ス

ルニ方テ、清潔空氣、適宜運動等ヲ兼子取ラシム、

チュベルケルニハ、亞爾加里泉、炭酸曹達泉、エムス、サルス

ブリン、セルチエ、ハツシ、ンゲル、等、ヲ佳トス、沕乙ヲ含ムカ故ニ、衝動起熱ノ性少ナシ、スクロヘルニハ、食塩、沃實涅、蒲魯密烏謨泉ヲ佳トス、レク、メ、ウ、ス、ナ、ク、イ、ス、セル、ド、レ、イ、セ、ン、ハ、ル、ウ、イ、ル、デ、グ、ヘ、イ、ル、ブ、ロ、ン、ア、デ、ル、ヘ、イ、ヅ、ブ、ロ、ン、是、レ、ペ、ッ、テ、ン、コ、ヘ、ル、氏、ノ、試、驗、ニ、テ、ハ、沃、度、曹、達、ヨ、リ、ハ、蒲、魯、密、烏、謨、ヲ、含、ム、ト、多、シ、ト、ス、直チニ其地ニ至リテ施コスヲ得サル者ハ、或ハ運輸スル品、又ハ人工擬造泉、或ハ食塩、又他塩一、浴、ノ、量、ニ、三、升、浴水ヲ用フヘシ、

更ニ賞用スル所ノ賤金屬、貴金屬、銅製劑、塩酸、銀、酸化金、塩酸金、動物炭、新搾植物汁、胡桃葉、及

ヒ其製劑子、ク、リ、氏、等、枚舉ニ遑アラス、經久スク

ロヘルニハ、悉篤滿煎良効アリ、ペ子ケ氏ハ、磷

酸加爾基、每、用、三、氏、至、二、十、氏、一、日、二、回、細胞體成形ヲ治スル

ノ効ヲ賞ス、殊ニスクロヘル病、腫瘍アル者ニ

用フ、バルマン氏ハ、稀磷酸ヲ苦味浸劑ニ配用

ス、チ、ユ、ソ、ン、氏、ハ、プロテイ子每、用、五、氏、至、十、氏、一、日、二、回、未、服、或、ハ、蒸、

餅ト、ボケル氏ハ、沃度諸母尼亞、四、氏、至、一、日、三、回、ヲ

用フ、

其二、補給機ヲ奮起ス、

上ニ記スル所ノ妙効品ニテ、敗血ヲ復治シ、異常

成分ヲ排除シ得ルモ、未タ以テ敗血ヲ全治スルニ非ス、何トナレハ、補給機ノ衰弱、敗血ノ因、尙未タ治セサレハ、復タ以テ敗血ヲ釀成スレハナリ、此法或ハ前法ト併セ施コスヘキアリ、又次テ用フヘキアリ、

最モ効アル者ハ、鍊ナリ、殊ニスクロヘルニ用フ、用法宜シキヲ得レハ、大人ノチュベルケルニモ効アリ、但シ多血症アル者ハ、先ツ之ヲ排除シ、或ハ之ヲ減退セシメテ、後鍊劑ヲ用フヘシ、先ツ緩性品、檜酸鍊、礞石、漸ク進テ純鍊ヲ用ス、鍊製劑ハ、苦味品、

大黃或ハ上ニ記スル清血品ヲ配用ス、近世大ニ

スクロヘルニ賞用スル者ハ、沃實涅鍊、半氏、二氏ニ至ル、

沃實涅鍊舍利別、一錢、六十滴、即チ沃實ニ至ル、

之ニ次ク者ハ、吉那及ヒ其製劑、滋養性ニシテ微苦

味アル依蘭苔膠、イエルセ苔膠、遠志、輕芳香品、健

質亞那、大黃、泥菖、括失亞、亞爾蘇等ナリ、

櫟實、櫟實、骨、菲、ハ、其名大ナレドモ効少ナシ、

以上記スル所ノチュベルケル、及スクロヘル敗血

諸症ノ外、更ニ局部病毒排泄ニ由リ、神經脈管ノ

機能ニ由リ、局部疾患ノ景況ニ由リ、交感ニ由リ、

發スル所ノ症狀、數般ノ差異アリ、此等ノ諸症、治
 法ハ、本病治法ト同シク、喫要件ニシテ、其局部症
 滋養過多、多 隨テ、局部病條之ヲ詳説スヘシ、
 焮衝、腫瘍、

侃斯達篤卷之七 終



